

子宮頸がん^{けい}予防のために私たちができること

子宮頸がんは、子宮の入り口に近い部分にでき、近年20～30歳代の患者が増えています。日本では年間、約11,000人の女性がかかり、毎年、約2,900人の女性が命を落としています。

子宮頸がんの主な原因はHPV(ヒトパピローマウイルス)の感染です。女性の多くが一生に一度は感染するといわれており、感染してもほとんどの場合、ウイルスが自然に消えます。しかし、一部の人は子宮頸がんになってしまうことがあります。

子宮頸がんを苦しまないためにできることは、HPVワクチンの接種と子宮頸がん検診の受診の2つです。

子宮頸がん予防ワクチン

子宮頸がん予防ワクチンは、がんになる前の病変を減らすとともに、がんそのものを予防する効果があります。



対象者は、無料で受けることができます。県外での接種を希望する場合は、事前に申請が必要です。詳しくは津市ホームページをご確認ください。

対象 津市に住民登録がある①または②の人
①小学6年生～高校1年生に相当する年齢の女性
(令和5年度の対象者は、平成19年4月2日～平成24年4月1日生まれの人)

②平成9年4月2日～平成19年4月1日生まれの女性

※平成9年4月2日～平成20年4月1日生まれの女性は令和7年3月31日まで対象です。

※接種時に必要となる予診票は、最寄りの保健センター窓口で、接種歴を確認して交付します。母子健康手帳を持参してください。



子宮頸がん予防接種

子宮頸がん検診

子宮頸がん検診は、子宮の入口を綿棒等で軽くこすって細胞を採取する検査で、がんになる前の病変やごく初期のがんを発見することができます。



初期の段階ではほとんど自覚症状がないため、20歳になったら、2年に1回定期的に検診を受けましょう。

原則、一度でも性交渉経験のある人が対象です。まれにHPVが原因でない子宮頸がんもあるため、不正出血や痛みなどがある場合は、婦人科で診療を受けましょう。

対象 20歳以上(令和6年3月31日時点の年齢)で自覚症状がない女性



がん検診

子どもの予防接種を受けるときは…

予防接種により免疫をつくることで感染症などの病気が予防できます。

予防接種の接種間違いを防ぐために、保護者は、子どもの氏名・年齢・受ける予防接種の種類を医師に必ず伝えましょう。また、母子健康手帳・予診票・健康保険証を必ず持参しましょう。



受診可能な医療機関のご案内

(24時間年中無休)

三重県救急医療情報センター
コールセンター ☎229-1199



医療ネットみえ

応急措置方法のご案内、医療相談・健康相談など
(24時間年中無休、通話料・相談料は無料)

津市救急・健康相談ダイヤル24

☎0120-840-299

医師や看護師など専門スタッフが、相談にお答えします。